

佐賀市排水対策基本計画【第2回改訂版】（案）に関するご意見と市の考え方

No.	素案 ページ	ご意見の内容（要旨）	市の考え方
1	P16,17 資料編 P55	大雨対策はずいぶん進んだと感じる。 年数回の床下浸水はやむを得ないので、過度な費用をかけないように。	佐賀市排水対策基本計画は平成26年度に策定し、これまでに短期対策、中期対策（前期）が完了しました。これまで進めてきた対策により、ほぼ同規模の雨に対しては、浸水面積や浸水戸数は大幅に減少しています。 限られた財源の中で費用対効果を検証し、対策の重点化や優先順位付けを行いながら、浸水被害の軽減に向けた実効性の高い対策を進めてまいります。
2	P16,17 資料編	これまでの対策により浸水軽減効果が表れていることが分かった。 新しい取組も必要かもしれないが、まずは継続して対策に取組んでほしい。	ご意見の通り、気象庁のデータを基に過去50年間について整理すると、時間最大雨量が大きくなっている傾向や、時間40ミリを超える降雨の発生回数が増加している傾向が確認できます。 気候変動により激甚化する降雨に対し、まちの機能保全を新たな目標として追加しました。これまでの取組の効果を検証しつつ、気象の変化を踏まえ、浸水深や浸水面積、浸水継続時間を軽減する対策を継続的に推進してまいります。
3	P21 P16,17 資料編	近頃は短時間強雨が増え心配だが、長時間の浸水は減っており、対策の効果が表れていると感じる。 今後も引き続き対策の推進をお願いしたい。	また、本計画における排水対策を図3.2.3段階別対策の位置図に示していますが、平野部全域において取り組んでおり、資料編「建物用地の浸水軽減効果（ブロック別）」に示すようにすべての地区において浸水軽減効果が表れています。 今後も局所的な効果にとどまらないよう、地域特性を踏まえつつ、平野部全体の浸水被害軽減に資するソフト・ハード対策を組み合わせ、対策を推進してまいります。
4	P22 P21 P32,33 資料編	気候変動リスクの増大を懸念している。 佐賀市全域で被害が軽減できるよう取組を進めてほしい。	佐賀城お濠での雨水貯留は既存の施設を活用し、市街地の中に貯留機能を持たせたもので、佐賀らしさを活かした有効な対策の一つと考えています。市街地に最大約6万㎡（25mプール190杯以上）の調整容量を確保することで、お濠周辺や多布施川下流域の浸水被害軽減に役立っています。 また、本計画における排水対策を図3.2.3段階別対策の位置図に示していますが、平野部全域において取り組んでおり、資料編「建物用地の浸水軽減効果（ブロック別）」に示すようにすべての地区において浸水軽減効果が表れています。 今後も局所的な効果にとどまらないよう、地域特性を踏まえつつ、平野部全体の浸水被害軽減に資するソフト・ハード対策を組み合わせ、対策を推進してまいります。
5	P48 P32,33 資料編	佐賀城のお濠を使った雨水の貯留はとても良い取組だと思うが、効果が限定的ではないかとも感じる。 排水対策は平野部全体を見据えた対策の推進をお願いしたい。	

No.	素案 ページ	ご意見の内容（要旨）	市の考え方
6	P48	<p>佐賀城お濠を活用した取組はとても特徴的だと感じた。今後も積極的に活用を進めてほしい。</p>	<p>佐賀城お濠の取組みは全国で初めてお濠を雨水貯留に活用したもので、既存の施設を活用し、市街地の中に貯留機能を持たせた佐賀らしさを活かした有効な対策の一つと考えています。お濠を低水位で管理することで市街地の中に最大約6万㎡（25mプール190杯以上）の貯留容量を確保しお濠周辺や多布施川下流域の浸水被害軽減に役立てています。</p> <p>今後はこの取組をさらに進めるため、常設ポンプを設置するなど、積極的に活用してまいります。</p>
7	P32,33	<p>大中島地区は内水排除が困難な地形で浸水リスクが高い状況である。</p> <p>基本計画に盛り込まれた「大中島ポンプ場」の着実な整備の実現に向けて進めていただきたい。</p>	<p>ご意見の通り、大中島地区は筑後川の中州であり、筑後川の水位の上昇によって、内水排除が困難な地形特性となっています。</p> <p>本市では令和2年度に改訂した排水対策基本計画において、段階別ハード対策の中期対策として大中島ポンプ場の新設を位置付け、現在、実施設計を行うなど計画的に進めているところです。</p> <p>今回改訂する基本計画においても、段階別ハード対策は継続して取り組むこととしており、大中島地区の浸水リスクの軽減を目指し、大中島ポンプ場の早期の完成へ向けて整備を進めてまいります。</p>
8	P47	<p>田んぼダムの取組については、市内の農地へ広く展開することで、流域全体での貯留能力を向上させ、下流域全体の浸水被害軽減に寄与すると考える。</p>	<p>ご意見のとおり、気候変動により水害が激甚化しており、国は流域治水の一環として田んぼダムを推進しています。田んぼダムは下流域の浸水被害軽減に効果があり、営農を続けながら実施できるところが利点となっています。</p> <p>一方で、効果は流域の地形や排水系統に左右されるため、市街地の被害リスクが高い水系を中心に重点的に導入することが合理的と考えております。</p> <p>佐賀市の田んぼダムについては、特に市街地からの雨水の流入が多い佐賀江川の上流地区を事業効果が発揮できるエリアとして実施しています。</p> <p>市内の農地へ広く田んぼダムを展開することにつきましては、下流域への浸水被害が軽減される地域を見極めながら検討を行ってまいります。</p>

No.	素案 ページ	ご意見の内容（要旨）	市の考え方
9	P42 P49,51	<p>自宅前の河川区間において、年々土砂が堆積し、草が繁茂している状況である。</p> <p>基本計画に河川・水路の堆積土砂や水草除去など維持管理の強化が明記されていることは心強い。</p> <p>日常的維持管理を充実し、実効性のある足元対策の推進をお願いしたい。</p>	<p>今回の改訂において、気候変動対応として新たに上乗せ対策を追加して位置付けましたが、維持管理の強化は重要な上乗せ対策の一つであると考えます。</p> <p>道路側溝・水路・河川等の維持管理の重要性を踏まえ、堆積土砂や水草の除去などを計画的に着実に実施し、流下能力・貯留能力の確保に努めることで浸水リスクを低減させます。</p> <p>また、本市では、行政だけでなく市民の協力を得ながらさらなる河川や水路の浚渫や除草に取り組んでいきます。市民主体の河川清掃活動についても引き続き推進・支援を行い、水路の流下能力の維持向上を図っていきます。</p>
10	P42 P49,51	<p>クリークへの堆積土砂による水路断面の減少を懸念している。</p>	
11	P49 P50	<p>公共施設において雨水を一時貯留し、河川への急激な流入を抑制する雨水流出抑制対策は、重要な施策であると考えるので、推進をお願いしたい。</p>	<p>溜める対策は雨水を一挙に流さず一時貯留する対策で、上流からの流出を抑えることで、下流の広い範囲へ浸水被害軽減効果をもたらします。今後、気候変動に伴い激甚化する降雨に対応していくためには、溜める対策の加速化・深化が不可欠です。</p> <p>今回の改訂において、既往計画は継続的に推進しつつ、気候変動対応として新たに上乗せ対策を追加して位置付けました。市街地において、まとまった面積を有する公共施設に着目し、施設や市の特性を踏まえた貯留方法について、安全性に配慮しつつ、効果的な施設・空間の活用方法を検討してまいります。</p>
12	P50	<p>公共施設等での貯留については、安全に配慮しながら、取組が広がっていくことを期待している。</p>	
13	P31 P49 P32,33	<p>溜める対策は佐賀市の地形に合っており有効だと感じる。</p> <p>地域ごとに平野全体を見据えた取組を進めてほしい。</p>	<p>佐賀平野は低平地で、高低差があまりないため水はけが悪く、有明海の潮位によっては排水できない時間帯もあることから非常に浸水しやすい地形となっています。</p> <p>溜める対策は雨水を一挙に流さず一時貯留する対策で、上流からの流出を抑えることで、下流の広い範囲へ浸水被害軽減効果をもたらします。今後、気候変動に伴い激甚化する降雨に対応していくためには、溜める対策の加速化・深化が不可欠です。</p> <p>局所的な効果にとどまらないよう、地域特性を踏まえつつ平野部全体の浸水被害軽減に資するソフト・ハード対策を組み合わせ、対策を推進してまいります。</p>